

去年は正に変革の年でした。アメリカから始まった未曾有の不景気で仕事と住み家を追われて、金もなく寒空に震えている人の話が、連日新聞やテレビを賑わせておりました。また、東京秋葉原で無差別に通行人を殺傷した物騒な事件がありました。自分に都合が悪いと直ぐにキレてしまって、刃物を振りかざす。どうしてこんな気になるのでしょうか。その根底には人を信ずる心が薄れて、人が孤独になってしまったからではないでしょうか。誰も自分を構ってくれない。自分は社会から見捨てられた。自分はこの世に居ない方がよいと思いついでしまう。それで他人を道連れにして死のうとする。目が外を向いていて、自分の方を向いていない。自分の都合が悪いことは全部外から降ってくると思いついでいる。そうではない。全てのことは縁によって生ずるのではないのでしょうか。もし自分のお父さんとお母さんが、この世で出会わなかったら、今の自分が生まれてこなかった。御縁を授かって、私がこの世に生まれてきた。これは考えてみれば不思議なことです。有難いことです。そう気が付くときに感謝の気持ちが湧いてくる。有難いことです。人はいったん思い込むとなかなか自分の思いが変らない。一番大事なことは思いやりの心ではないのでしょうか。人を信ずる所に人の和が出てくる。人は決して孤独ではありません。自分がこの世に存在しているのを喜んでいる人が必ずいる。仏教の本質は慈悲の心です。それに気付かせてもらおう。そこが大事な所ではないのでしょうか。